

Useless Patterns and Security 無益なパターンと安全 (p136-137)

It is interesting that nervous people have a marvelous way of making their worst fears come true.
神経質な人々が自分達の最悪の不安を実現させるためのすばらしい方法をとるのは興味ぶかいことです。

Children who are so afraid that mother will not like them can become completely obstreperous.
母親が自分のことを嫌いになるんじゃないか、と恐れる子どもは、徹底的に手に負えなくなったりします。

They can be so obnoxious that not only will mother not they like them, no one else will because they are such pests.

彼らは母親だけでなく他のみんなも、彼らのような害虫を嫌いになるように、不愉快な態度をとります。

They do all kinds of wrong things, not because they are bad, but perhaps in order to make mother pay attention.

自分達が悪い子だから、というだけでなく、おそらく母親の気を引くためにも、彼らはありとあらゆる悪さをします。

These children force themselves into a situation that they themselves hate and of which they are afraid.

このような子どもたちは、自分でもイヤだと思って恐れている状況へと自分達自身を追いやるのです。

This is in order to get something which they do not think they could get any other way.

これは、他の方法では得ることができないと彼らが思っている何ものかを得るためです。

Perhaps there is another child in the family who received a lot of attention because it was smaller or sick or maybe very sweet.

ひょっとしたら家族の中に別の、幼い子どもや、病気の子ども、あるいはすごくかわいくてたくさんの注目を得ている子どもがいるのかもしれない。

Another person cannot be “out sweetened.”

他の人が「もっとかわいがられる」ことはないでしょう。

However, this sweet person can be outdone in another way.

しかし、このかわいい人物は他の方法で出し抜かれるかもしれません。

The same attention can be obtained by being horrible.

同等の注目が、ひどい人物でいることによって得られることがあるのです。

Quite often people miss out on life by adhering to **a useless pattern** which in their opinion would be safer.

人々は、より安全だと自分の考える**無益なパターン**にこだわることで、人生を損なってしまうことが、きわめてよくあります。

It is like the child who will sit on a hot stove to worry mother.

それは母親を心配させたいがために熱いストーブの上に座る子どものようなものです。

The child does not like nor count on the pain, and then pays a very high price: blisters, for worrying mother.

その子どもは痛みに耐えることは好きでも何でもないのに、そうして母親を心配させるために、水ぶくれというとても高い代償を払うのです。

These patterns vary from one person to another.

こうしたパターンは人ごとにみなちがっています。

Just because people behave in somewhat the same way, however, does not mean that it means the same thing.

人々が多少同じような振る舞いをしてきたからといって、しかしながらそれは、同じことを意味するのだとは限りません。

All persons construct their own pattern out of their own ideas, their own situations, and afterward perceive the environment accordingly.

すべての人々は自分自身の考えや状況から来るパターンを構築し、そして後に、それによって環境を理解するのである。

This view is, therefore, completely unique.

この視点は、それゆえ、まったくユニークです。

Two people doing the same thing may be serving a completely different goal.

同じことをしている2人の人が、まったく違った目標に尽しているのかもしれないのです。

On the other hand, if two people act very differently, it may still serve a very similar goal... to be reached by completely different *means*.

一方で、もし2人の人がかなり違った行動をしていたとしても、それでもなお非常に似かよった目標に向かって、まったく違ったやり方で、尽力しているのかもしれない。

These means, or methods, are called **the style of life**.

これらの手段、あるいは方法が、ライフスタイルと呼ばれます。

・ a useless pattern 無益なパターン ⇒資料1)、2)

The normal notion of helplessness, of inadequacy, that children experiences becomes a situation in which to achieve, to learn, to develop.

子どもが経験する、無力感や不十分といった通常の内容念は、達成したり学んだり成長するための状況になります。

This inadequacy is an incentive to grow in the direction of the world of grown-ups; to become as good or as wise, or whatever the child considers important.

この不十分な感じは大人の世界へ、つまり、(大人のように)立派になるとか、あるいは賢くなるとか、またはなんであれその子が重要だと考えるような、そうした方向へと成長する動機なのです。

This becomes the world toward which children orient themselves, their abstraction, their fiction.

これは子どもが自分で方向付けた世界、彼らの抽象概念、仮想、となります。

Whatever happens will be evaluated from the standpoint of whether or not it brings them closer to a situation of security as fixed in the chosen **prototype**.

起きることはすべて、選ばれた**原型**に定められた安全な状況のより近くへと彼らを運んでくれるかどうか、といった立ち位置で評価されます。

“If I were like so and so, then I would be safe.”

「もしそんな風だったら、私は安全だろう。」

A person would never choose an **insecure** over a secure prototype.

人は**安全な原型よりも安全でない原型**を選ぶことは決してないでしょう。

The purpose of selecting or forming a prototype is to get away from one's childhood insecurity to a position of security where one would feel powerful, or adequate, or significant.

原型を選んだり形づくる目的は、子ども時代の安全でない感じから、自分は力があるとか十分であるとか大切であるなどと感じられるような、安全な位置へと逃れることです。

It needs to be something that is better, more important, than one is as a child.

それは、子どもとしてのその人よりもよい、より重要な、何かである必要があります。

For this reason, the insecure prototype would certainly not be desirable in any way to the person.

こうしたわけで、安全でない原型は確かに、人にとってまったく望ましくないものであることでしょう。

- ・ 安全な原型/安全でない原型？
- ・ The normal notion of helplessness, of inadequacy ⇒資料3)
- ・ prototype ⇒資料4)
- ・ secure/insecure 安全/安全でない ⇒資料5)